IT革命と農山村等地方からの情報発信研究会（第3回）議事概要

1 日 時 平成12年11月6日(月) 14:00～16:00

2 場 所 経済企画庁会議室（708号室）

3 出席者

（委員）中川 聡七郎 座長

飯塚 克己、大野 良彦、小林 義人、長谷川 文雄、秦 章人、藤井 宏一、前田 博、
森内 真人の各委員

（事務局）牛嶋総合計画局長、永谷審議官、藤塚計画課長 他

4 議 題

- ・都市と農山村の新たな関係を構築するためのITの活用方策について

5 議事内容

事務局より資料説明の後、討議。各委員からの主な発言は以下のとおり。

（各委員の主な発言）

ITを活用した情報の受発信は、地方からのたくさんの情報発信というだけでなく、情報の受信により地域の発想を変えるという2つの意味で重要。

地方自体が、東京からの情報のみをありがたがるのではなく、他地域からの情報も受け入れられるようになる必要がある。

エコミュージアムのように情報発信と場の提供を結びつけ、既存の小さな資源を集めて活用するという発想が重要。

最終的には農山村地域の定住者を増やす必要があり、グリーンツーリズムの先に「グリーンライフ」という発想が必要。

農山村には、ボランティア活動への参加に抵抗を持っている住民も多い。むしろ、都市住民が農山村のために行うボランティア活動が今後も期待できるのではないか。

情報の発信源として車で1時間程度の範囲とあるが、ハードのサポート等の実情を踏まえて考えると、非常に現実的。

基本的に情報供給者側からのIT整備の発想で書いてあるが、情報利用者側の視点にも留意する必要がある。

大学間をネットワーク化し、都会の大学と地方の大学との交流を通じて、ITスキルの高い大学生が地方からの情報発信に係るソフト、ハードのメンテナンス支援を行う仕組みを検討してはどうか。

地域からの情報発信について、大学生等を活用するのはいいが、情報のメンテナンスをどのように実施していくかを考えておく必要がある。

以上

なお、本議事概要は速報のため、事後修正の可能性があります。

（問い合わせ先）経済企画庁総合計画局農林水産業班 高木（内線：5557）